



中村俊定文庫  
文庫 18  
565



入



誹諧續寒菊集

明月や草花接ぎよ〜松  
 ぬれ月や松花位乃 乃〜ハ  
 名月にあは玉なれや 草花  
或人のゆゑて服せし  
 世のあはれ〜

擊波 南花 交和 諸九



對梅字立  
 萩原乙彦  
 藏于俳書  
 二百精舍

名月や松一本乃言能形 杏文

大橋のほとけ屋形舟まきぬを  
志々流河川すりはらうまきぬ  
り能くまきぬ屋まきぬ  
新をえんおのくまきぬ

水草本月能較見能今宵其 松風

人乃月去かこすり能んまふ乃月 野川

誘り能て友の事能るも月之子 芝屋

紅梅のうら

月と背砂なり河の流る松ふし 松和

松根よりて月を本共宵くりり乃 浮風

は白の松根を本乃言能  
ゆきまのり乃言能

十六夜や松糠星をこ出して 菊巻

いさよ心や西より言能り申す寸 白轡

青陽堂之十二勝乃申  
也唐匠月とつる言能

猿猴とかな能心能新や池乃月 碎湖

言能り言能て出能る言能月之能 菊河

心を神り能言能く言能松風 浮風

あまのつら言能る言能り言能の月 燕士

伊勢於二日城より阿漕の浦乃

後より西をせしむる一詩

日よ〜 心〜 心〜 やきん 後考〜

風律

小望れぬハ中〜 一て業の戸吹  
中〜 望れぬハ山ふハろ夫をすて〜  
心〜 望れぬハ心〜 望れぬハ心〜  
今宵の清き〜 棧姫を望〜  
ま〜 望れぬハ心〜 望れぬハ心〜

店の月をやもんころへ極ひるり

全

書棚〜 銀杏〜 菱多〜 朝乃〜 姝

青雨

菱乃〜 柳や〜 秋を〜 倚一〜 舟

嵐夕

持〜立妹〜 や菱〜 扇も〜 在若〜 手

槐枝

秋来〜 ぬ〜先息〜 一ツ〜 二ツ〜 舟

嵐魯

彦伯彦中

虫ハ〜 菱乃〜 枕の〜 紙や〜 夕乃〜 娘

凡十

新波の浦一

秋志〜 菱乃〜 や〜み〜く〜記〜芦乃〜 六〜お七〜 ね

莛史

匡中行〜 一〜 一〜 一〜 一〜 一〜  
西〜 律〜 一〜 一〜 一〜 一〜 一〜

か〜 菱乃〜 紙や〜 秋志〜 思ふ〜 すり

杏塵

本樺の香ハ七夕乃迄	風を	聖坡
星言や誰うかむる者	榴花	飛川
七夕や二世の歌をかゝるき	風	律
巾と櫛ハ二道有るや	星乃	素筠
天乃何れも添えて	言り	杏塵
星今宵片くハ	宿事	結牙
	か	ん
		吳逸

祭聖靈文

土一石のふきハ  
 ふきりー雲寸之  
 終りぬ衣きー人  
 もむけしき  
 殿の  
 床を心むく  
 七之陳子ハ  
 慈あひと  
 事此来る  
 子ハ一杯  
 乃昔を切り  
 てもやーと  
 五を井ハ  
 なるん  
 う遊ひ  
 くれ指を  
 けてけり  
 せおふ  
 子亡友  
 いくと  
 てもや  
 人わ  
 ふ秋の  
 お秋  
 着子  
 入く  
 ても  
 覚えて  
 け指  
 月乃  
 秋の  
 忽然と  
 遊を  
 ころり  
 け新  
 櫛の  
 昔乃



しそ吟席主會の如し庭上の樹を中文據に  
宵ふ疑るる又宛物守中風是子如く窓鏡の  
湘すもやるとけを生つ砂目と映して珊瑚琥珀乃  
玉とくく又いしきすして茄子乃をむくさたよ所  
をる落みりり物証諸一篇のく子ゆへりし時  
吾口を抄く一紙の糸又如伴

風律書

還糸之ぬあい庭中つつり行く 曲坡  
松風やおくれ先々の煙霧乃火 青色  
送り火や西く西てきあが泡 法九  
よまの柳花隣々文々くも如く 可友

玉糸すこ麻さくすくき次 風律  
無常を親して  
世を捨てる人さるる

踊るおや、茄子を人子あはれ 凡十

お〜おや人目乃冥能ぬを如し  
一踊お〜お〜お〜お〜お〜お〜  
お〜お〜お〜お〜お〜お〜酒家くれ  
百樹

十一  
六三

お〜お〜角力冥乃岩角踏きりし  
相模取事お〜お〜角子孫連にあり  
お〜お〜お〜お〜お〜お〜お〜お〜  
お〜お〜お〜お〜お〜お〜お〜お〜  
お〜お〜お〜お〜お〜お〜お〜お〜  
お〜お〜お〜お〜お〜お〜お〜お〜  
お〜お〜お〜お〜お〜お〜お〜お〜

お〜お〜お〜お〜お〜お〜お〜お〜  
お〜お〜お〜お〜お〜お〜お〜お〜  
お〜お〜お〜お〜お〜お〜お〜お〜  
お〜お〜お〜お〜お〜お〜お〜お〜  
お〜お〜お〜お〜お〜お〜お〜お〜  
お〜お〜お〜お〜お〜お〜お〜お〜  
お〜お〜お〜お〜お〜お〜お〜お〜  
お〜お〜お〜お〜お〜お〜お〜お〜

戒人  
草居を討て

お〜お〜お〜お〜お〜お〜お〜お〜  
お〜お〜お〜お〜お〜お〜お〜お〜  
お〜お〜お〜お〜お〜お〜お〜お〜  
お〜お〜お〜お〜お〜お〜お〜お〜  
お〜お〜お〜お〜お〜お〜お〜お〜  
お〜お〜お〜お〜お〜お〜お〜お〜  
お〜お〜お〜お〜お〜お〜お〜お〜  
お〜お〜お〜お〜お〜お〜お〜お〜

風傳  
杉三  
百樹  
六合  
桂枝  
蓼左  
五泉  
六合  
六合  
素流  
杏庵  
六合  
流通



くわくわく 若枝もさうさぬ 蓬の如

民回

若い人子もさう 庭ぬくと 砧山

柳儿

碓氷も 夫もさう 小おまぬこ

柳丈

森入のも 記さすも 穂巻 砧の如

松雨

伊豫の三ツの溪より 彦根へ赴く時  
曰玉を語りてさうさうとてゆく

海を舟して 星入る 舟は 舟をさ

吉屋

鈴虫乃 只一ツ 如く 夜さむ 舟

和暢

若きお 舟り 楳嶺と さいつ 舟をさ

妻山

舟子お やさうさう 舟をさ 舟をさ

諸九

舟入の 舟り 舟をさ 舟をさ

舟を

船輪や 舟り 舟をさ 舟をさ

風信

塔塔や 舟をさ 舟をさ 舟をさ

杏麻

尻飛ひ 舟をさ 舟をさ 舟をさ

野坡

初一や前うろく詠めらま  
 ころ一や道人もまのうし  
 初一や一田をふり一田ハ種  
 風搔く藤のおや略と子松  
 洪一さのニツ子た申思海と略  
 名もや悲のうし建てこれ掛ひ  
 五十産枝く枝く精まへに  
 昔のまう一鵬のふも志と道なり

杏塵 里隣 可友 延史 可友 気律 子蓮 聖坡

草狩や下も入るよとらまなり  
 菌物小僧もまのうしまのし  
 はちまも人も志のうし枝草  
 者老方ちを忘くあう子新浮小  
 茶壺もまのおのうしなもつる記なり  
 旁海一まもく入ん短ふもは  
 今朝又もまも本乃まもるなり家財也

其滴 道史 林泉 風律 文沙 可友 士原

落葉秋見ゆけりさきくしぬ

は白も傍りありのぼりて  
今ハ旭志を忘るは

無葉や老るるもさう葉は葉

さうさ秋葉ハ捨せ栢栢ぬ

草の葉子涙の出来し小雨

草は葉の葉やほろりとも水

鬼灯やゆきまらぬあ乃さ

うねまのさかかてさ淋しや

るや花もさくさく風の中

空

宿二

文曉

松原

杏庵

葵右

夏白

冥くさくさ葉のあつと飛去想

浄白居士書下葉を思ひて  
さうさ秋葉ハ捨せ栢栢ぬ  
さうさ秋葉ハ捨せ栢栢ぬ

南

秋のおや 花もさくさく風の中

志山の傍りのまはるる  
さうさ秋葉ハ捨せ栢栢ぬ  
さうさ秋葉ハ捨せ栢栢ぬ

風

さうさ秋葉ハ捨せ栢栢ぬ

中

あまきやちかき老を忘るはら  
と者用の心もくも襦ひ  
あひぬくもあやふくは人  
乃常もくも一古唐城  
あやもくも父母玉を  
浮は世の中乃常  
は時ハ舞草の流  
を舞くは中子踊る

持くも一衣をかくも

吾麻

仕もくも一衣をかくも

水鳥

肉もくも一抱もくも

怒一

一衣もくも一抱もくも

湖天

うのうと云位の垣乃本権  
多形もくも一抱もくも  
志後くも本権

五乘

吾麻

呉造

閑伽極や嵐山

そハ唐の由事乃白く  
閑伽極の由事乃白く  
そヤ人衣はくは

秋風やゝ風眼のすゞけ彦彦  
娘やききお壁紙の尾乃御  
浦一や細子濃ふ河を能風  
風律  
呉造  
五麻

風能言萩のまき浦り吹を能ん  
修棟のすけお塚やふすき  
旧園  
吏和

野舎乃墓を能ん

付志おし〜眉やむき〜  
珈涼

娘下萩下萩のまき〜那  
萩乃ま〜〜〜〜自い〜  
あ〜の〜身ゆ〜い〜ん萩の花  
紅格白〜も〜りん萩乃ま〜あ  
ふ萩やゆ〜ま〜の本林〜との河〜  
素流  
六台  
江棧  
可支  
梅小

新う屋山波

若草ま〜〜〜〜〜  
支考ぬぬ〜先〜〜〜  
梅小  
可支

けうハ西本村世をけう〜  
〜乃河〜〜時〜

糸すゝはききこもやすん床乃花  
 床啼や焼きあゝ秋葉を  
 小男あの子あまよひし一本乃石  
 あまをらふの本橋子入るや明かす床  
 戸をぬき人ききあまり秋の音  
 解きこり飯く泡や浦君秋  
 都もも秋乃音あけり貸水と浦  
 ぢふぢふ酒振舞心あまのこれ

蝶舞  
 杏麻  
 杏山  
 杏雨  
 風待  
 乃翁  
 若海  
 神坡

水中 龍 浪 小 峯 能 孤 葉 子  
 善 局

うは乃山にて

細きや 鮫 身 けり 少 秋 葉 子  
 本 枝 葉 子 八 文 子 秋 葉 子 ぬ 孤 葉 子  
 总 破 者 海 月 子 輪 子 子 子 子  
 孤 葉 子 山 子 子 子 子 子  
 山里の 孤 葉 子 投 者 子 子 子 子 子

杏雨  
 凡十  
 汶川  
 春泥

お葉見や侍も一枝着く海歌  
雨毎年一枝つのもみまうれ  
梅山  
下き

歌葉集

川さの時白と白くき岸お葉  
掃くももせきく岸く夕や  
お葉見や侍はくははる女中  
野坡  
吳逸  
暮夕

冬之部

歌仙

芭蕉

生かろくちのよきあつて海氣水  
かよひハ白く、雪葉あこ色  
代官乃飯屋子冬の月紙見て  
水風呂桶を編を入り  
酢の糟を拵るハ汐の引たり  
出水  
蕉  
水

くふもあそんでくすお澄  
親の耐をうりし医者乃若手其  
度安志のまふ能のくすまり  
香着者かかすくすおの音  
能く物乃のくく志くくも  
麻衣をくすくもくすく谷  
中橋のくすく悔く風年  
とことかともくくくく月すく

杉風 水蕉 水蕉 水蕉 水

は、福く垂し細志露く  
造くく村をくく寺の  
くくおのくくくく夜  
初心乃沙法かなくく  
伊賀路も実年山を裏入る  
名  
くく中おまのくくや  
小き浪く飽賞ハく  
堀城子屋敷を覗く横町

水風、水風水風水



う ち 中 一 扇 分 々 折 一 立  
こ ち ち ち ち 世 古 月 々 照 つ 光 々  
志 々 々 々 々 念 止 々 々 一 俚  
光 へ あ 々 家 の 道 奥 々 々 々 々 々 々  
あ 々 々 々 生 じ 柳 々 々 々 々 々 々 々  
山 下 の 木 々 々 々 々 折 々 々 々 月  
々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々  
宵 戸 門 へ 出 々 々 々 々 々 々 々 々

水 風 水 風 水 風 水 風

掃 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々  
一 折 々 々 吹 々 々 々 々 々 々 々 々  
目 望 々 々 者 々 々 知 年 乃 氣 子 入  
五 六 度 々 々 々 々 々 々 一 木 侍  
々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 代  
よ 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々  
孩 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々

風 水 風 水 風 水 風 水

芭蕉 六句

岱水 十八句

杉風 十二句

幾句

初雪や極早もて出立孫乃裾  
うし雪や嵐持てる 兼盛 子  
目体めし松刃印しうらと那の雪  
おろちう先孫折るやうそけき  
穴熊をかきやきんおろし乃袖  
おろしきくくくき山  
雪の日や舟乃烟のむすぢお色

岱水  
杏雨  
雪朝  
杏麻  
李康  
園文  
梧末

雪の衣やうらハしく人乃夢  
何く〜と葉落るもや水の雪  
白雪の中は燈少〜守 夢も亦

水容々七冬

神衣や是も手向者 袖乃うへ  
〜う〜も雪の衣 雪も亦  
つきやうして 融く 雪は 筏も  
おさぬ雪〜り有りて 雪も亦  
雪〜く 雪も亦 雪も亦

大雪や何〜て 古き村

何の之日月志こ〜や 神衣  
和〜き〜や 葉落るの 初時

紀伊乃次

志〜く 雪も亦 雪も亦  
〜く〜や 雪も亦 雪も亦  
雪も亦 雪も亦 雪も亦

舌武

旧玉

蓼冬

風付

雪も亦

渭水

青牛

大魯

五麻

凡十

鬼夕

告唐

東吹

柳凡

皂角子丸 冬ハ 冬ハ 冬ハ 冬ハ 冬ハ

冬ハ 冬ハ 冬ハ 冬ハ 冬ハ

本此是... 掃はお... 相楓か... 火吹... 冬ハ 冬ハ 冬ハ 冬ハ 冬ハ

柱女

聖坡 縮之 吳造 可友

画讚

葉ハ... 冬ハ 冬ハ 冬ハ 冬ハ 冬ハ

也有

或曰... 葉ハ... 冬ハ 冬ハ 冬ハ 冬ハ 冬ハ

生玉や... 冬ハ 冬ハ 冬ハ 冬ハ 冬ハ

杏唐

法堂... 冬ハ 冬ハ 冬ハ 冬ハ 冬ハ

枯... 冬ハ 冬ハ 冬ハ 冬ハ 冬ハ

風付

冬... 冬ハ 冬ハ 冬ハ 冬ハ 冬ハ

主原

冬... 冬ハ 冬ハ 冬ハ 冬ハ 冬ハ

文雄

冬... 冬ハ 冬ハ 冬ハ 冬ハ 冬ハ

泉故

冬... 冬ハ 冬ハ 冬ハ 冬ハ 冬ハ

交和

冬... 冬ハ 冬ハ 冬ハ 冬ハ 冬ハ

楊杏

風より立すきしきる男あふ那  
本〜〜や海桶洗ふ湯の白い  
里ハま〜ふ〜や〜〜入  
山伏乃ふぬ〜〜〜  
路中足守踏皮〜〜乃も病ふ那

病ふ那〜

い〜〜〜何よ〜〜や〜〜

梯山

甚梁

魚木

檜井

号逸

傍

木而

初家や中屋根ま〜〜詔のま〜  
そのまぬ〜〜〜  
明〜〜〜  
冥〜〜〜  
〜〜〜

文下

五麻

旧圃

杏麻

岱水

納豆汁唐木竹庫裏の白ひ〜  
〜〜と汁男と女ふ男ふ那

喜雨

五麻

仍多々母之合点や茶吟  
和しん力カん色あり大根引  
申了此証を系抄に家あり  
奪持や寺路あり大権那  
物多々々々此眼あり入口に

五調  
依兮  
交和  
吉局  
延史

中々好まざるなり作しむるなり  
或ち名の筆のものとして送る事  
をわらものありともありとれ

夜多乃多先古村多ありいゝあ

吉唐

芭蕉二忘りし其意なきあり而も  
仲火より鴨店乃老の歌十部  
とて豆腐と沙汰しやうう十部  
記す中の子白鼻もらうとて四部  
俗乃多ら俗よりとて神と記  
本の記乃多ら多らとてや神鼓

風林  
徳水  
稲井  
法九  
杏唐  
菩村

風誘ふまゝに紙子紙子之居る所  
襟白くぬくまゝに紙子紙子  
氏の子息も家の子息も紙子紙子  
夏乃中子ついでぬ乃まゝぬまゝ  
家年せむく隠居隠居中子中子

杉風  
里桐  
渭水  
法九  
胤魯

風律を袖のまきまきふるりあつて  
乃中をまきまきふるりこぼるあやうは  
ありーまじゆ

隠中まゝに新や女乃福祿壽

尾  
碧之

冬あひる又春流らん世々ら

冬あひる

冬あひる冬あひる冬あひる冬あひる  
冬あひる冬あひる冬あひる冬あひる  
冬あひる冬あひる冬あひる冬あひる  
冬あひる冬あひる冬あひる冬あひる

冬あひる  
冬あひる  
冬あひる  
冬あひる

冬あひる冬あひる冬あひる冬あひる  
冬あひる冬あひる冬あひる冬あひる  
冬あひる冬あひる冬あひる冬あひる  
冬あひる冬あひる冬あひる冬あひる

文書をきくこころしき 海のうへ 吳造

弥山眺る

日中のやみぬきき 水邊 岩の島 杏庵

村中より海へかきすけりうや 風律

友をえりて月おのちとるに寐しを 夢多吉

杏庵の五里の溪をわきく  
思川乃ちりりト居る時

海と川とをきく 水邊 乃 杏庵

阿波さけのきくもらひきたきりり 乃 婦

足踏の溪よりきくきき 水邊 氷意

風をきく白ひく一羽をきくぬ 梅水

少年行

水邊さけのきくいりり 吳造

おきい羽やちりり 流九

鴨乃毛や風をきく 旧圃

水鳥やゆんで 可友



槽焼や若 福と祝乃 譲りの  
槽の火や 天窓の光 新  
槽多くや 扱も 此 屍ひし  
素嵐  
波川  
文由

代水亭新巻

生 翠々々 五々々 青き 火煙外  
訪 閑居  
丹 坡

草乃 店 辰色 火煙 風 律  
口ま くり 達者 子あり 火煙 壺  
おと ころへ 火桶 子 二 柳  
眼子 書て 八 爾寸 火と 際 酸

志 誠 是 是 温 泉 也 里 邦 里  
和 里

任吉奉納

おと ころへ 火桶 子 二 柳  
杏 唐

若新樂やまゝ振るる康乃耳

宇白

煉掃や鴨居を移らば校招篇

此句ハ鹿見鴻々々 権柄人 覇江藤々  
探題乃句ハ一字一語 芥と云ふ

すゝもつしとくらくくさまははり

滄平

市西ののこりたる人々 風乃画の  
人柄子部と云ふと 時列を撰

さくはまやれり阿もるる古今相

八桂

煤もやまを履をもつてかこまり

九十

解つふやとくと新の巻

松立

解掃や每晚のく後蔵

之園

自家浪口ツ橋のさぬんふらん

竹阿

襟乃茎や八年志 都 鳥

喜圃

川口や海を舟鼻毛と名も

風鬼

年乃市賣芳子も子代一糸

六合

おしむくくさり年一糸

秋水

おしとすや年を夜しく廿八夜

杏麻

古箱の縁をうきて

まろくをうて年をうて

除きけ燈や家る月の非分の非

涼風

蠟燭をぬく燈を年をうて

風律

弱灯ハ花乃福や山々

風粒

新道やつらくおとん

梅水

年中の誓志やく紙魚

吳造

たしと日輪の人

中坡

見とら此年も

道史

清涼く生るる年を

竹子

難波女乃

雲雀

只言結つて

杏麻

誹諧續寒菊集

雜之部

塔山產葉のみくし江府子居る  
之月予ハハくまう都府をかき  
せハハくまハ平う育接をま  
かすをくまう接をゆめか  
人よ似たりくやあそゆを  
おらんく枝を曳くと路かひ  
あがり秋の名残さやふか

むきし世やはらるるのねさるる

とま

送別

何ともよは来候風をあそれ

杉風

沙生居の画漢

言は榊や田炉重くし白ふ

杏麻

田園の終の時を後

温泉くは

なちく守枕も伊豫の湯柳

杏麻

産湯くまのゆり終の時  
湯くまのゆり終の時

信枕くまつちた乃以痛く

吳造

世乃中くまおろくまうて

支考

虚も答へるもさへて欲す也

琴左

栗津廓系

道もけしはるまじや

杏麻

賀大和耕作集

も、代や激々田もわろ死す川

也有

橘人も人子乃をさやうはの山

風律

誹諧續寒菊集終

作者地名

素嵐	明鳥	松立	民固	梅北	布舟	千翅	柳几	蝶羅	春圃	亭加	琴之	一所不住
周防	怨一	之園	枳夫	青雨	備中	加賀	篁雨	遠江	大魯	鬼祐	蝶夢	芭蕉
湖天	其滴	風紫	松雨	八桂	暮之	珈凉	近江	白輅	松房	撰津	重厚	丈艸
肌玉	林泉	性牛	子蓬	凡十	備後	闌更	冬柱	武藏	弄我	野坡	有泉	惟然
士厚	風鬼	菊兒	東吹	庭史	笥山	丹後	美濃	杉風	李康	梅從	嘯村	路通
越示	松三	松操	楊杏	五鹿	稻井	季友	支考	嵐雪	伊賀	南荅	春泥	山城
百樹	滝女	梅戸	橘井	杏文	詔海	石見	里紅	岱水	桐雨	羅川	和泉	去來
荷涼	可友	桐江	柿山	桂枝	梨英	魚木	琴左	園女	伊勢	西人	吳逸	浮風
夏白	楚幽	素良	里桐	六合	桃李	し智	飛彈	蓼太	樽良	舊国	龜友	文下
豊人	竹子	南河	滑北	素流	安藝	播磨	滄洲	竹阿	尾張	玉東	白辰	小文
長門	芦路	春瓜	文由	汝川	風律	山李	出羽	玄武	也右	二柳		

梧來	伊稼	乃翁空蒼	雀二	方十	筑前	杏雨	杏扉	市女	交和
五帆	松和	醉湖蝶醉	秋水	万李	宁白	椿子	風猪	宁麥	文雄
文沙	諸九	竹兩	依兮	素鈞	紗葉	江棧	狸雪	嶺魯	筑後
豐前	和暢	冰壺	杏山	渭水	信女	其梁	嵐通	五調	豐後
燕士	肥前	梨里	槐枝	芝岡	嵐夕	其朝	関女	泉故	秋江
蕉雨	玉淵	素々	素炒	祥禾	肥後	文曉	薩亡	里桃	青牛
雨笑	禪枝	不知作者	七句	不知生国	兔夕	滄平	絹之		
琉球国		霸江藤							

安永九 庚子六月下浣 浪蒼無名菴中 杏廬選

洛陽書肆 橘屋次兵衛 井筒屋庄兵衛 壽梓



五

Handwritten notes and signatures at the bottom left of the page, including a circular seal and some illegible characters.

